

## 和装文化・織物産業の振興について

【担当省庁：経済産業省、文部科学省、文化庁】

日本の伝統的衣装である「きもの」の伝統的技術や技法を次世代に継承し、和装（きもの）文化を継続・発展させるため、国において、和装（きもの）文化のユネスコ無形文化遺産登録に向けた取組を積極的に進めていただきたい。

京都府  
の担当課

商工労働観光部 染織・工芸課 (075-414-4856)

## ■現状と課題

日本の伝統的衣装である「きもの」は、日本独自の文化とともに発展し、高度な工芸技術を結集した、日本の美意識の集大成ともいえるものであるが、和装文化・産業の現状は生産量の大幅な減少など、大きな危機に直面している。

## ■登録に向けた各種団体等の動き

(公財) 京都和装振興財団：28年度よりユネスコ無形文化遺産登録推進部設置。

平成29年5月29日に「きもの文化」のユネスコ無形文化遺産登録に向けて、全国組織の和装関係団体と一緒に、和装の調査研究を進めるよう文化庁長官、経済産業大臣、文化審議会会長に要望書を提出。

登録に向けた(公財)京都和装振興財団の取組について、全国の200以上の団体が賛同。

## ■ユネスコ無形文化遺産登録の状況登録

文化庁は「来訪神：仮面・仮装の神々」についてユネスコへの再提案を決定。

平成30年秋に審議予定。

また、登録申請の対象として、国指定の文化財を基本としてきた原則を見直し、和装、茶道、華道など、日本の伝統的な生活文化を今後の登録申請の対象として検討することを決定。

## ◎現状登録されている状況：製法・技術伝承

- 1 日常的に着る衣装が主な登録内容と思わしきもの
  - ・タキーレとその織物芸術（ペルー、2005年）
  - ・ウガンダのバーククロス製法（ウガンダ、2005年）
- 2 特別な場合に着る（日常は着ない）が主な登録内容と思わしきもの
  - ・小千谷縮・越後上布（日本、2009年）
  - ・結城紬（日本、2010年）
  - ・トレムセンの婚礼衣装の伝統にまつわる儀式と技能（アルジェリア、2012年）
  - ・レフカラのレース、レフカリティカ（キプロス、2009年）
  - ・マチョ民芸、伝統コミュニティの刺繍（ハンガリー、2012年）
  - ・オービュッソンのタペストリー（フランス、2009年）
  - ・アランソン刺繍の職人技能（フランス、2010年）
  - ・韓山（ハンサン）知能のモシ（カラムシ上質）織物（韓国、2011年）
  - ・中国の養蚕・絹織物の職人技術（中国、2009年）
  - ・南京雲錦織の職人技術（中国、2009年）
  - ・黎（リー）族の伝統的な織物技術：紡績、染色、製織、刺繍（中国、2009年）
  - ・ジャムダニ織りの伝統美術（バングラディッシュ、2013年）
  - ・インドネシアのバティック（インドネシア、2010年）
  - ・ペカロンガンのバティック博物館との協力の下で行う小・中・高校、職業訓練校、工芸学校の学生のためのバティック無形文化遺産の教育・訓練（インドネシア、2009年）